令和4年度四国高等学校柔道選手権大会

柔道専門部新型コロナウイルス感染拡大防止対策ガイドライン

本専門部の主管大会における新型コロナウイルス感染対策を下記の通り定める。

I 基本的な考え方（高知県高体連ガイドラインより）

1 コロナ禍における大会運営について

- (1) 選手・役員等をはじめ大会関係者全員の安全・安心の確保を最優先事項とする。
- (2) 大会実施の可否、実施時における応援者及び観客への対応等重要事案の決定に際しては、県教育委員会・県高体連事務局及び競技団体等関係機関と綿密に連携したうえで決定する。
- (3) 各競技の運営に当たっては、開催地自治体（衛生部局等を含む）及び使用する施設等が示す感染症拡大防止に向けた方針等を最大限尊重し、開催自治体と競技専門部間で連携のうえ対応する。
- (4) 各競技別の開会式・閉会式及び諸会議については感染症拡大防止の観点から、中止または必要最小限の規模で実施を検討する。

2 新型コロナウイルス感染症拡大防止について

- (1) 3つの「密」（密閉空間、密集場所、密接場面）を回避する。
- (2) 身体的距離（ソーシャルディスタンス）を確保する。
- (3) 手洗いを徹底する。
- (4) マスクの着用（ただし、熱中症や競技特性に応じた対応に留意する）を徹底する。
- (5) 競技会場及び会議施設等においては定期的な窓開等により換気に留意する。

3 大会実施の可否等について検討する場合の条件について

本連盟は関係機関と綿密に連携し、以下の条件に基づき、必要に応じて大会全体、または一部競技の実施の可否等について検討する。

- (1) 「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が県下に発令された場合。
- (2) 県や市町村の方針等により大会実施の可否等について検討が必要となった場合。
- (3) 県下の医療状況のひっ迫状況により、安心安全な大会運営が困難な状況となった場合。
- (4) 出場校や選手の辞退等の増加により、当該競技の大会運営が困難となった場合。
- (5) その他、大会開催にあたり通常の実施が困難と判断された場合。

※大会開催の考え方は次ページ参照

新型コロナウイルス感染症対策に係る高知県高等学校体育連盟主催大会開催の考え方【第3版】2022.4.24

※国や県が定めたガイドライン等により随時改定となります。

2022/4/25

国の措置	高知県高等学校体育連盟 県高体連主催大会開催の考え方	観客の取り扱い	高知県教育委員会 [新型コロナウイルス感染症対策における高知県のステージに対応した県立学校の部活動の考え方 12/8改定]より 部活動の制限及び活動時間
緊急事態宣言	高知県内における大会実施の可否	観客の取り扱い	部活動の制限及び活動時間
非常事態	<p>★感染状況によっては、大会の中止又は延期を判断する場合があります。</p> <p>→中止・延期の判断を行うような状況下においては参加校へ予めその基準や期日等を定めて周知すること。 →中止を判断した場合の参加料等の取り扱いについても予め定め参加校へ周知すること。</p>	<p>[無観客]</p>	<p>県内外における公式戦・発表会等への参加 → 慎重に検討する</p> <p>※1 感染状況により上位大会がない県内外の大会参加については、県教委において一律で禁止する場合があります。ただし、上位大会がある県内大会や県に出場が決まっているプロテック大会、全国大会については、校長の判断により出場を認めることができます。</p> <p>県内外における練習試合等への参加 → 禁止する</p> <p>※2 感染状況によっては、部活動の全面禁止を行う場合がある。</p>
まん延防止等重点措置	<p>上位大会がある県内大会（予選会） … [実施可]</p> <p>※状況により、参加制限や開催時間短縮等の対策をとる。 ※専門部が安心・安全を優先し中止又は延期することは妨げない。</p> <p>上位大会がない県内大会 … [原則実施可] ※1・2参照</p> <p>※状況により、実施の可否について慎重に検討する。 ※専門部が安心・安全を優先し中止又は延期することは妨げない。 ※状況により、参加制限や開催時間短縮等の対策をとる。</p>	<p>[入場可]</p> <p>※会場キャパ50%以下の入場者数で、運営委員において観客管理が可能と判断されれば保護者等に限定し入場可。 ※実施に当たっては専門部が行う基本事項を確認すること。 ※観客を受け入れる際の専門部が行う基本事項を確認すること。 ※専門部が安心・安全上の理由や、運営上の理由により無観客とすることを妨げるものではない。</p>	<p>県内外における公式戦・発表会等への参加及び県内における練習試合等への参加 → 状況により慎重に検討する</p> <p>県外における練習試合等への参加 → 禁止する</p>
特別警戒	<p>全ての県内大会 … [実施可]</p> <p>※競技特性等に対し高体連コロナ対策基本方針および競技団体コロナ対策ガイドライン等により十分な感染対策を講じ、安心・安全を担保すること。</p>	<p>[入場可]</p> <p>※会場キャパ50%以下の入場者数にて実施 ※入場者は各学校において事前把握ができ、かつ会場において各観客間が管理可能な範囲とする。（一般観客の受け入れは原則として実施しない） ※実施に当たっては専門部が行う基本事項を確認すること。 ※観客を受け入れる際の専門部が行う基本事項を確認すること。 ※専門部が安心・安全上の理由や、運営上の理由により無観客とすることや参加制限を設けることを妨げるものではない。</p>	<p>令和4年4月20日付け4高保体第77号（県のステージが「警戒」における通知） 平日は2時間程度、週休日は3時間程度とする。 ただし、高等学校の運動部活動については、高校の県体に向けて4月21日から5月20日まで、校長が認めた場合、平日は3時間程度、週休日は4時間程度の活動を認める。</p>
警戒			<p>☆通常での活動可</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平日2時間程度まで ・週休日等3時間程度まで ・平日3時間まで（校長の許可） ・週休日等4時間まで（校長の許可）
注意			
感染観察			

[観客を受け入れる際に専門部が行うべき基本事項]

- ① 予め入場者に、観戦に関する注意事項を周知すること
- ② 会場において、選手と観客が混在することが無いようにゾーニングを行うこと（会場内動線等においても最大限配慮すること）
- ③ 会場に入退場ゲートを設置し、来場者の確認・検温（自宅等に**無観客**）・マスク着用確認等を行うこと・健康確認（体調不良者の入場は不可であることを事前周知すること）
- ④ 会場内において、観客向けのアナウンスや掲示物等を用い注意喚起を行い感染防止対策に努めること

II 感染防止対策の概要（高知県高体連ガイドラインより）

1 一般的な事項

- (1) 実施専門部は、感染防止のために実施すべき事項や参加者が厳守すべき事項をあらかじめ整理し、チェックリスト化したものを適切な場所（大会の受付場所等）に掲示すること。
- (2) 実施専門部は各事項がきちんと遵守されているか会場内を定期的に巡回・確認すること。
- (3) 参加校のエントリー選手・帯同部員（補助員）・引率者・監督・外部指導者等（以下「大会参加者」という）は、【様式 1-1、1-2】高体連主催大会参加 体温・体調チェック記録票（団体票）を各競技大会 2 週間前から大会参加終了日までチェックし、大会初日には【様式 2-1】高体連主催大会における大会前の健康状況等確認についてと【様式 1-1、1-2】の写しを大会本部に提出すること。また、大会日毎に【様式 2-2】高体連主催大会における大会期間中の健康状況等確認についてを大会本部へ提出すること。万が一感染者が発生した場合に備え、個人情報の取扱いに十分注意しながら、【様式 1-1、1-2】の原本については、2 週間保存しておくこと。

また、参加校は競技期間中に感染者または濃厚接触者および体調不良者が発生した場合には、実施専門部に対して速やかに連絡を取り詳細を報告すること。その後は医療機関や保健所、関係機関等及び実施専門部の指示に従うこと。実施専門部は指定書式【様式 3】を作成し、県高体連へ速やかに報告すること。

※P10 IV感染者が発生した場合の基本的な対応について 参照

- (4) 実施専門部は、万が一感染が発生した場合に備え、個人情報に十分注意しながら、大会参加者から提出された【様式 2-1、2-2】の原本および【様式 1-1、1-2】の写しを、2 週間保存しておくこと。
- (5) 大会役員等は【様式 1-4】高体連主催大会参加 体温・体調チェック記録票（個票）を大会終了日までチェックし、保存期間（1 月以上）を定めて保存しておくこと。なお、チェック期間に体調不良等が生じた場合には競技担当者へ連絡を取り参加の可否について確認すること。また大会終了後 1 週間以内に体調不良が見られた場合には、実施専門部へ報告すること。
- (6) 参加校及び実施専門部は参加者に陽性者・濃厚接触者が確認、および自宅待機要請者（令和 4 年 4 月 22 付け 4 高保体第 86 号参照）が確認された場合は、医療機関や保健所、関係機関等の指示に従うこと。
- (7) 参加校は大会終了後も【様式 1-3】高体連主催大会参加後 体温・体調チェック記録票（団体票）を用い、1 週間に渡りチェックを継続し、2 週間保存すること。
- (8) 参加校は、競技終了後 1 週間以内に感染者が発生した場合は、実施専門部に対して速やかに連絡を取り詳細を報告すること。実施専門部は指定書式【様式 4】を作成し、県高体連へ速やかに報告すること。

※P11 IV感染者が発生した場合の基本的な対応について 参照

- (9) 大会参加者は、医療機関や隔離施設、宿泊施設、自宅までの移動や輸送について、各自（各学校）の責任で行うこと。

- (10) 取材や写真撮影を希望する団体は事前に実施専門部へ連絡するとともに【様式 1-4】
高体連主催大会参加 体温・体調チェック記録票（個票）をダウンロードし、各競技大会
2 週間前から大会参加終了日までチェックすること。取材当日は入場の際に大会本
部へ行き「参加者名簿」へ必要事項を記入すること。大会終了後 1 週間以内に体調不良
が見られた場合には、実施専門部へ報告すること。また個票は保存期間 2 週間とし、専
門部の求めに応じて提出すること。
- (11) 安全・安心な大会運営のため、選手・監督等大会関係者は大会期間中のみならず、日頃
から体調管理に十分留意すること。そのうえで、発熱等の体調不良があった場合には、速
やかに医療機関による診断を仰ぐとともに、その状況についてチェックリスト等へ誠実
に記載すること。

【様式取扱一覧】

[高知県高等学校体育連盟 HP <https://www.kochinet.ed.jp/kochi-htaiiku/>] より DL 可

様式	作成者	内容	保存場所	保存期間
団体票 【様式 1-1】 【様式 1-2】	参加校	・ 2 週間体調チェックし作成 ・ 大会期間中もチェックする ・ 専門部より求めがあれば原本を提出	各校顧問	大会終了後 2 週間
団体票 【様式 1-3】	参加校	・ 大会後 1 週間体調チェックし作成 ・ 専門部より求めがあれば提出	各校顧問	
個票 【様式 1-4】	大会役員等 取材団体 (参加校)	・ 2 週間体調チェックし作成 ・ 大会期間中もチェックする ・ 専門部より求めがあれば原本を提出 ※参加選手は団体票【様式 1-1、1-2】ではなく個 票での対応も認める。運用上の取り扱いは団体票と同 義とする	作成者 ※参加選手に おいては各校 顧問	
【様式 2-1】	参加校 (学校長)	・ 大会前 2 週間の健康チェック内容を学校長が確認 し、 公印を押印し作成←※注意 ・ 大会当日に顧問が大会本部へ【様式 1-1、1-2】 (個票【様式 1-4】を用いた場合も同様)の写しを 添えて提出	専門部	
【様式 2-2】	参加校	・ 大会日毎に作成 ・ 大会参加を自粛するものがある場合は所属長および 実施専門部へ状況を報告 ・ 大会本部へ提出	専門部	
【様式 3】	専門部	・ 競技期間中に 1- (3) に該当する者が出た場合	専門部	
【様式 4】	専門部	・ 競技終了後に 1- (8) に該当する者が出た場合	専門部	

※【様式 2-1】は提出がない場合、原則試合への出場が認められないので各校顧問は注意する
こと。

※大会開催中においても、自校生徒への体調確認等は顧問が責任を持って行うこと。(顧問で
判断できないケースが発生した場合には必ず所属長への確認をとること)

2 当日の参加受付時の留意事項

実施専門部は、大会当日の受付時に参加者が密になることへの防止や、安全に大会を開催・実施するため、以下に配慮して受付事務を行うこと。

- (1) 受付には、手指消毒剤を設置すること。
- (2) 参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと。
- (3) 受付を行うスタッフにはマスクを着用させること。
- (4) 人と人が対面する場所は、経費面を考慮して、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。
- (5) 発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように、貼紙などにより注意を促すこと。
- (6) 新型コロナウイルス接触確認アプリ等の通知サービスを積極的に活用すること。

3 大会参加者への対応

(1) 参加における体調の確認

実施専門部は大会参加者に以下の事項が記載された【様式 1-1、1-2】高体連主催大会参加 体温・体調チェック記録票（団体票）を各競技大会 2 週間前から大会参加終了日までチェックさせ、学校ごとに【様式 2-1】高体連主催大会における大会前の健康状況等確認について（団体票）と【様式 1-1、1-2】の写しを提出させること。

また、【様式 2-2】高体連主催大会における大会期間中の健康状況等確認についても大会期間中は大会日ごとに提出させること。

提出に関しては個人情報の取り扱いに十分注意し、引率責任者（顧問教諭等）が提出すること。

●ア 大会当日の体温

●大会前 2 週間における以下の事項の有無

イ 平熱を超える発熱がある
ウ 咳、咽頭痛など風邪の症状がある
エ だるさ（倦怠感）、息苦しさ（呼吸困難）がある
オ 嗅覚や味覚の異常がある
カ 新型コロナウイルス感染症陽性者との濃厚接触がある、または学校より自宅待機要請者等として出席停止措置を受けている
キ 同居家族や身近な知人で感染が疑われる方がいる
ク 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある	}	イ～オの症状が見られる場合は医療機関等を受診し、団体票（個票）の備考欄にその診断結果等を記載すること
◎ワクチン接種により体調不良が発生した場合は、顧問に申し出て団体票（又は個票）の備考欄に記載すること		

※大会への参加については、大会参加前 2 週間の健康観察状況（上記ア～ク）と当日の状況から適切に判断し安全・安心を最優先に考え、参加校の責任において決めること。また、医療機関等の指示がある場合は遵守すること。

※各中央競技団体ガイドラインにて大会参加の判断基準が定められている場合はその基準を尊重し、「競技別の感染症拡大防止対策ガイドライン」へ明記すること。

(2) マスクの準備

引率責任者(顧問教諭等)は、大会参加者がマスクを準備しているか確認すると同時に、着用についても徹底指導すること。なお、競技中のマスクの着用は大会参加者等の判断によるもの(※)とするものの、参加の受付、着替え、表彰式等、競技を行っていない間、特に会話するときには、必ずマスクを着用すること。

※マスクを着用して競技を行った場合、十分な呼吸ができず人体に悪影響を及ぼす可能性があることに留意するとともに、適宜周知すること。

(3) 大会参加前後の留意事項

大会参加者は、大会前後のミーティング等においても、3つの密を避けること、会話時にマスクを着用すること、黙食など感染症対策に十分配慮すること。

Ⅲ 競技運営上の感染対策留意事項

- ① 定期的な換気、畳の消毒を行う。
- ② 会場放送等で注意喚起する。
- ③ 試合中以外はマスクを着用すること。アップ時も原則マスクの着用する。
- ④ マスクを入れる袋(ジップロックのようなもの)を用意し、他人に直接マスクを渡すことを禁止する。
- ⑤ 試合前、試合後の手指消毒を必ずすること。
- ⑥ 声を出しての応援は禁止。拍手等で応援すること。
- ⑦ 試合中の大声での指示や指導は禁止する。
- ⑧ 試合後に密集してのミーティング等は禁止する。
- ⑨ 観戦する場合は、十分な間隔(1~2m)をとる。
- ⑩ 飲食は指定の場所でとること。周囲の人と距離を取り、対面を避け、会話はしない。飲みまわし等は絶対にしない。
- ⑪ 審判員はマスクを着用する。また、テーピングなどがはがれ試合場に落ちた場合はビニール袋(運営が準備)を使用する。試合場から降りる場合は手指消毒をする。
- ⑫ 試合場に入れるのは出場選手のみ。
- ⑬ 観客は十分な感覚を取り、マスクを必ず着用する。大声をあげての応援は禁止する。
- ⑭ 発熱等の諸症状があった場合は速やかに報告すること。出場の可否については全柔連のガイドライン(下記参照)に従い決定する。

※ 上記が守られていない場合は会場放送等で呼びかけを行う。遵守できない者には、途中退場を求めることがあり得る。

※ 上記以外、全柔連の指針「/新型コロナウイルス感染症対策と柔道練習・試合再開の指針 (Version-5) 20220126」のに従い大会を運営する。

3) 選手への対応

選手は試合場（計量会場）に到着時、選手受付 10 日間前からの健康記録表を大会委員長に提出します。選手の試合参加の判断は、以下の入場可否の基準を参考にしてください。

<選手の試合参加の入場可否の基準>

10日前	-9	-8	-7	…	-4	-3	-2	-1	当日
記録開始									入場日 (試合・計量)
× 3日に渡る発熱 ^{注1)} ・ 諸症状あり		× 2日以上発熱 ^{注1)} ・ 諸症状あり			× 1日でも発熱 ^{注1)} ・ 諸症状あり				
× 健康記録表や誓約書など大会が必要とした書類を提出しない									

注1) 発熱の基準は、37.0 度以上とする。ただし、平熱が 37 度前後の場合は、平熱+0.5 度までは参加を認める。平熱は直前 10 日間の平均値とする。

※出場チームにおいては、選手が一人でも有症状のために試合参加不可となった場合、チーム全体として試合を辞退することが望ましい。団体戦の試合出場は原則不可と判断します。個人戦でも試合前 2 日以降に有症状者と練習をしていた選手の出場は不可と判断します。
※選手は試合中の待機中の位置取り（選手間は 1~2m 離す）に注意し、選手による大声での応援や指示は禁じます。

≪全柔連のガイドラインより≫